

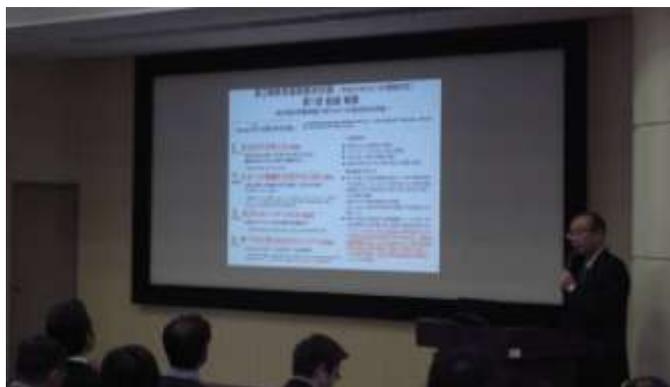
「かながわ教育フォーラム相模原大会」の結果概要について

- 1 趣旨 「かながわ教育ビジョン」第6章に基づき開催した「かながわ人づくりラボ2013」における今後の議論の視点を踏まえ、かながわ教育ビジョンの第4章、第5章の検証と改定に向けて、県民との論議を通じて、推進過程を振り返り、課題解決に向けた今後の方向性を明らかにし、教育論議を深める。
- 2 テーマ 「これからの学校教育を考える」
- 3 日時 平成25年12月7日(土)13時15分から16時30分まで(12時45分開場)
- 4 会場 神奈川県立相模原中等教育学校 視聴覚室ほか
- 5 参加者 107名

6 結果概要

(1) 基調提案 文部科学省初等中等教育局教育課程課 倉見昇一学校教育官

第2期教育振興基本計画では、教育行政の4つの基本的方向性を掲げているが、小学校、中学校、高等学校等においては、「生きる力」の要素であり、生涯にわたる学習の基盤となる「自ら学び、考え、行動する力」などを確実に育てることが大切である。これらを踏まえ、基礎的な知識・技能の確実な習得や協働学習、多様な体験を通じた課題探求型の学習など、子供たちの学習意欲、知的好奇心を引き出すような学習の推進が求められる。また、インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、教育的ニーズに的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みの整備が重要である。



(2) ワークショップ

「これからの学校教育を考える」について、高校生・保護者・教職員・県民により、次の5つのテーマについて、ワークショップを行い、グループごとに報告を行った。

- テーマA 「学校に期待する育みたい学力」
- B 「求められる交流・体験の教育活動」
- C 「必要な児童・生徒への支援のあり方」
- D 「期待される教職員」
- E 「これからの学校運営と環境整備のあり方」

テーマA 学校に期待する育みたい学力

(現状と課題)

- ・積極性を育てていかなければならないのは、生徒だけでなく先生たちでもある。

- ・自己肯定感が弱い。体力が低下している。
- ・ネット社会に対応できる力が必要である。
- ・思いついたことを順に迫って説明できる力が必要である。
- ・自分の意見を持ち、意見を交流させなければいけない。
- ・これからの社会に向かっては、みんなと一緒にいれば大丈夫というような時代から変化していく必要がある。

(意見)

[論点1] 「自分の意見を出すには、どうすればよいか？」

- ・他者が受け止めてくれているという安心感がないので、出せないのではないか。
- ・学びたいと思う気持ちが高まるための場づくりが必要である。

[論点2] 「学校では、どのような授業を受けたいのか？」

- ・授業の前に、まず、家庭で様々なことを語り合うことが大切である。
- ・先生には、もっと生徒の声を聞く力を付けてもらいたい。

(まとめ)

- ・学ぶことは、楽しかったはずである。どこで、その気持ちが失われてしまったのか。その学びたいという気持ちを絶やさないことが大切である。

テーマB 求められる交流・体験の教育活動

(現状と課題)

- ・学校行事としては交流・体験の教育活動は充実しているように思われるが、もっと、充実していくべきではないか。
- ・児童・生徒が交流・体験を行う意義が不明確ではないか。
- ・ただ、やっているような感じがある。学校側の不理解があるのではないか。
- ・企業等、受入れ側が不十分であると思う。

(意見)

- ・小・中・高校でそれぞれ交流・体験を行っているが、連続的なつながりがないのではないか。将来の就労や進学などを見据えた取組みが必要ではないか。
- ・一方的に交流・体験に行かされている感が否めない。例えば、自分で興味のある交流・体験に参加できる内容を企画し、実行できるプログラムを作ってはどうか。そのような自発的な交流・体験を行えば、もっと社会に還元される仕組みになると思う。

(まとめ)

- ・学校だけでなく、家庭や地域と協働して取り組んでいく必要がある。
- ・自分から交流・体験のプログラムを用意する。
- ・受け入れる側の地域や企業が逆に、交流・体験の企画などを行う。

テーマC 必要な児童・生徒への支援のあり方

(現状と課題)

「子どもたちは学校生活で何に困っているか」について考えた。

- | | | |
|-----------|---|------------------|
| 密接に関係している | <ul style="list-style-type: none"> ・授業（内容）が分からない。 ・人間関係、コミュニケーション。 ・生活リズム。 ・設備等。→ お金で解決できる。 | ※人が関わらないと解決できない。 |
|-----------|---|------------------|

※人が関わらないと解決できないことに関して、具体的に「自分」で何ができるのか。

視点：自分で何ができるか。自分以外（国、地域、親、教師、・・・）で何ができるか。（「心」が重要になってくる。挨拶がとても大切である。）

（意見）

- ・コミュニケーションが行き交う場を作る。
（自らが動く、自分からアクションを起こしてみる）
- ・具体的には、挨拶を始めてみる。一人ひとりを人として尊重する。
- ・少しずつ長期スパンで、コミュニケーションが行き交う場について考えて、動いていく。
- ・挨拶が大切であり、挨拶からコミュニケーションが始まり、次の関わりが始まる。しかし、挨拶するアクションには時間がかかる。でも、これを乗り越えれば、もっとより良い関係を築くことができる。

（まとめ）

- ・地域・学校の雰囲気が良くなれば、皆が当たり前に関わり合う豊かな社会を創ることができる。

テーマD 期待される教職員

（現状と課題）

- ・子どものことを理解することが、根幹にある。
- ・分かる授業をしていかないといけない。
- ・教職員の研修のあり方が重要であり、研修を充実させるべき。
- ・学校に関わる保護者、地域との連携も大切である。
- ・人材育成の視点として、若手教員の育成が大切。
（教科への対応は問題ないが、子ども理解がうまくいかない。）
- ・総合教育センターでの研修も大切だが、先輩教員からの教えがもっとあってもよい。

（意見）

- ・授業に関して、学校として子どもたちにどのような力を身に付けさせたいのかをビジョンとして明確に示していくべきである。
- ・その内容を踏まえ、どのような授業を行っていけばよいかを考える。
- ・学校では、より良い授業にしていくために授業研究を行っている。
- ・小・中学校では、授業研究を行っているが、高校は全国的には行われていない傾向があるが、神奈川県では校内研究を県立高校の全校で行っている。
- ・しかし、うまく研究内容を活かしていく必要がある。
- ・小・中学校でも、教科プロパーの教員づくりが必要である。
- ・研究主任を設定して校内で組織的に改善を図っていく。
- ・市町村の指導教諭は大変であるが、がんばっている。
- ・連絡を密にした地域への指導主事の巡回が大切である。
- ・チームとして学校を運営していく「マネジメント力」が必要である。

（まとめ）

- ・「子ども理解」を中心に、保護者・地域と連携した取組みが必要であり、また、充実した研修を行っていくことが大切である。

テーマE これからの学校運営と環境整備のあり方

〔論点①〕「協働と信頼に根ざした学校づくりを行ううえでは、学校はどのような運営改善が必要であるか。」

(現状と課題)

- ・小・中学校と比べて全県一区となった高校は地域に対する意識が希薄になっている。
- ・都市部になると、昔ながらの地域との関係がなく、地域の人々のつながりが希薄である。
- ・専門学科高校は自校で作ったものを販売するなど、地域との結びつきが強いが、普通科高校は地域に発信していくことが少ない。
- ・教職員と保護者間のコミュニケーション不足。

(意見)

- ・防災訓練など、地域の自治会と一緒にやる。(子どもたちが地域の人々に関わりを持つ。)
- ・支援の例を知る方法が少ない。(各学校で持っている情報を共有する。)
- ・生徒会の活動をもっと活発にして、地域との連携を深めていく。

(まとめ)

- ・学校が地域との関わりを持つ意識が必要である。
- ・例えば、学校の行事等をホームページに掲載すること以外に、自治会のお知らせ版に学校行事を掲載するなど、様々な世代に伝わる手立てが必要である。

〔論点②〕「子どもが快適で安全安心して学べる学校環境として、何をどのように整備していく必要があるか。」

(現状と課題)

- ・県立学校の洋式トイレの数が少ない。
- ・校舎の耐震性が不安である。

(まとめ)

- ・「まなびや基金」等の充実を図り財源を確保することが大切である。



(3) 教育論議

5つのワークショップでの結果の発表を通して、全参加者がそれぞれのテーマについて話し合いの内容を共有するとともに、参加者の意見交換により教育論議を行った。

(主な意見)

- ・小学校のときに、人形浄瑠璃の体験を行った。小学校だけでなく、高校でもやっ

てほしい。高校は中学よりも体験活動が減っている。

- ・授業の内容が分からないという点については、分からないときにすぐに先生に聞きにいける状況が構築できていれば、授業が分からないということが改善される。
- ・先生と教職員とは何が違うのか。学校を運営する人と、生徒に勉強を教える人を分業することができたら、先生は生徒の教育にもっと時間を割けるのではないか。
- ・先生の中には、黒板のまとめ方が上手ではない先生がいる。先生になるときに努力してほしい。
- ・インクルーシブ教育は、誰にも分かりやすい授業づくりにつながるし、今後そういった学校経営が望まれている。

今後、教育ビジョンの第4章及び第5章の改定に向けた、点検・検証を進めていくに当たっては、今回の内容も十分に踏まえながら、論議を進めていくことが必要であるとのまとめがあった。



- (4) 記念演奏 神奈川県立相模原中等教育学校 クラシックギター部
- 「カルメン」第2組曲より「闘牛士の歌」 作曲：ビゼー
 - アゲハ蝶 作曲：ak. homma (本間昭光)
 - Spanish Coffee 作曲：F. ミルズ



7 今後の予定

「かながわ教育フォーラム小田原大会」

日 時 平成26年1月18日(土)13時15分から16時30分まで(12時45分開場)

会 場 神奈川県立小田原高等学校

テーマ 「家庭教育・地域協働を考える」